



今日「オフィス空間を整えることは投資であり経営改革である」と言われています。オフィスは一日の1/3以上を過ごす場所。ワイドでは、みんながやりがいを感じつつ楽しく働ける環境を作るため、オフィス快適クラブを結成しました。というわけで、今回は巷で流行のオフィスに関するものを調べてみました☆



上下昇降デスク …北欧では新規購入シェア 9割

体格は人それぞれなのに机の高さはみんな同じ。普段、私たちは机に合わせて座っているため、少し無理な姿勢をしている時があります。また、座りっぱなしや立ちっ放しが、身体に悪影響を及ぼすという話は、vol.62でお伝えしたとおり。そこで「上下昇降デスク」を取り入れる企業が増加中！自由に立ったり座ったりできるので、座りすぎによる健康リスクを軽減します。また、それぞれの体格にあうように微調整できるのも上下昇降デスクのいいところ。健康をサポートしつつ気分転換にもなり、仕事効率や生産性もアップできるという優れたものです。

座り仕事向き

- じっくり考えたいとき
- 疲れたとき
- 集中力を要するとき

立ち仕事向き

- 眠いとき
- さっと終わりたいミーティング
- 立ったり座ったりが多い作業中

コーディングは立ち姿勢の方がはかどるという人も・・・



- 腰痛緩和
- 肩こり軽減
- 程よい疲労感

<小耳にはさんだ失敗例>

海外では、音楽を流してリラックスし、立ち姿勢の時にはノリノリで体をゆらしながら仕事するのに対し、真面目な日本人は直立して動かない人が多いそうです。そのため、かえって血流が滞り、足がとっても疲れてデメリットの方が感じやすいとか。特に、座り仕事に慣れているベテランさんは、立つタイミングがわからなかったり、立つことを忘れてしまうそうです。

フリーアドレス …計画外の共同作業によってイノベーションが生まれる



別名「ノンテリトリアルオフィス」。

固定した席を決めず、空いている机にPCを移動して仕事をするスタイルで、1990年後半から外資系企業やIT企業を中心に導入事例が増えています。営業職など常駐しない人たちが、座席をシェアすることでスペースを有効活用できる効果があり、またどこに座ってもいいので、職位や部署を超えてコミュニケーションが自然発生します。「様々な人と混じる」ことは、新しい発見や気づきを生み、創造性を高めることができます。うまくいけば他部署とのコラボレーションへの発展につながるほか、リフレッシュ効果もあるそうです。

<小耳にはさんだ失敗例>

「ハイ！隣いいかな？」と誰かの隣に座るのは外国人が多く、シャイな日本人はなるべく人がいない隅っこを探して座ったり、隣にいても「話かけないで」オーラが出てたりして、期待通りにはいかないみたいです。また、モニタを移動しないといけないうフリーアドレスの場合、業務に支障が出ることも・・・。

フリクションボール …書いて、消して、また書ける

ワイドでも使用している「フリクションボール」。消せるボールペンです。画期的！！60度以上の温度になると透明になるインクが使用されていて、-10℃で消した文字が復活する特徴があります。このフリクション、数えきれないほどのトライ&エラーを繰り返し、30年かかってようやく製品化されたそうです。いまや国内認知度は60%で海外でも大人気！単色・多色・マーカー等々、100種類以上もあります。ドライヤーの温風やオープンの予熱を使って、使い終わったノートを再利用する人もいますとか・・・。研究者の方には、途中であきらめなくてくれてありがとう！！と伝えたいぐらい便利で使いやすいペンです。



<小耳にはさんだ失敗例>

「固まったインクを溶かそうと思ってお湯につっこんだら残りのインクが全部透明になった」とか、「履歴書を預かってコピーをとったら白紙になった」とか、「うっかりメモの上にホットコーヒーを置いてしまい文字が消えた」とか、「消したはずの文字が冬の野外で復活してた」とか・・・。

「オフィス」=「コスト」から「オフィス」=「投資」に

昔、オフィスに求められていたことは「コスト」を抑えて「効率性」を上げることでした。現在は「コスト」より「パフォーマンス」重視になり「働き甲斐」やく「居心地」という働き手の気持ちよさを求める傾向があります。これは、テレワークやフレックスなど仕事の仕方に自由度が増したことや、ワークライフバランスにより短時間で成果を上げる「生産性」が必要になってきたことが関係しているのかもしれませんが。今後は「人にしかできない知恵を絞る仕事」が増加すると言われています。仕事の仕方や内容が変わればオフィスも進化する必要があるのですね。